

大雄会の 専門家に聞いてみよう!

Daiyukai Health System

50歳から考えたい 前立腺がんの話

男性に多いがんのひとつである前立腺がん。初期には自覚症状がほとんどないことも多く、「自分は大丈夫」と思っているうちに見つかるケースもあります。一方で、検査や治療について正しく知ること、早期発見や自分に合った治療選択につなげることが出来ます。この連載では、前立腺がんの基礎知識から検査、治療、泌尿器科に相談すべき症状まで、泌尿器科医の視点でわかりやすくお伝えします。今回は、前立腺がんの治療法についてです。

第三回 前立腺がんの治療は“選ぶ時代”へ

前立腺がんと診断されても、すぐに全員が同じ治療を受けるわけではありません。がんの広がりや悪性度、年齢、持病の有無、生活スタイル、そして患者さん自身の希望などを総合的に考え、一人ひとりに適した治療法を選択します。

治療には、前立腺を摘出する手術、放射線治療、男性ホルモンの働きを抑えるホルモン療法、抗がん剤や新しい薬を用いた薬物療法などがあります。また、がんの性質によっては、すぐに治療を始めず慎重に経過を観察する「監視療法」が選ばれることもあります。

近年では、手術支援ロボット（ダヴィンチ）が広く普及しています。高精細な立体的映像を見ながら精密な操作ができるため、体への負担を抑えた手術が可能となり、多くの施設で導入されています。

以前は、前立腺がんが転移していると治療が難しいと考えられていました。しかし近年は、ホルモン療法に加えて新しい薬剤が次々と登場し、転移がある場合でも病気の進行を抑えながら長く生活できる患者さんが増えています。

前立腺がんの治療は年々進歩しており、早期がんはもちろん、進行したがんや転移がある場合でも、さまざまな治療法を組み合わせることで病気の進行を抑え、生活の質（QOL）を保ちながら過ごせる患者さんが増えています。大切なのは、一人ひとりの病状や希望に合わせて、最適な治療を選択することです。

第四回では、泌尿器科に相談するタイミングについてお話しします。



監修

総合大雄会病院 泌尿器科

たか ぎ きみ あき
高木 公暁 医師

〈主な資格〉

・日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医
・日本透析医学会 透析専門医

